

令和7年度事業報告

現在、日本の医療情勢は、持続的な物価高騰と人件費上昇のダブルパンチにより、医療機関の経営が極めて厳しい状況にあります。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）もほとんど収束し、私たち沖縄県臨床検査技師会の各事業に対する体制も、コロナ禍以前に戻ってきております。そのような現状のなか、沖縄県臨床検査技師会が新体制となって、1期2年を経過いたしました。着々と組織全体が次世代への移行期に入っており、役員一同懸命に取り組んでおります。

さて、令和7年度を振り返ってみると、まず、令和8年沖臨技新年会・祝賀会がノボテル沖縄那覇で令和8年1月25日（日）に開催されました。手登根稔監事が令和7年春の叙勲（瑞宝双光章）を受章し、これまでの沖臨技活動の功績をたたえる集大成となりました。また、沖臨技からの特別功労賞として、故人となった運天芳浩氏（沖縄協同病院）、大城明子氏（友愛医療センター）、松田英世氏（沖縄ソノグラファーサポート）の3名が受賞し、ご家族へ届ける形で、これまでに経験したことのない非常に感動する新年会・祝賀会となりました。

重点課題としては、「タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」の開催があげられます。沖縄県においては、昨年度までに最終的に計11回開催し、これまで865名の会員が受講し約68.6%の受講率を示しており、令和8年4月14日時点で全国5位となっております。この11回は、令和8年1月11日（日）におきなわクリニカルシミュレーションセンター（西普天間）で開催し、58名の参加者がみられました。今後は、中央もしくは、日臨技九州支部で開催され、後者の九州支部においては九州北部地区と九州南部地区の2ヶ所で開催予定となっております。この資格は、臨床検査技師免許へ添付する意味合いの重要で、且つ、今後の臨床検査技師業務のあり方に不可欠な資格となってきますので、未受講の方は早めに受講されますようお願い申し上げます。

第3回となった「地域リーダー育成研修会」は、令和8年2月22日（日）に友愛医療センターで開催され、19名の参加がありました。この研修会では日臨技から真髓となる横地会長を招いて、リーダーのあり方だけでなく、社会情勢・医療情勢から今後の臨床検査技師のあり方まで講演していただきました。沖臨技からの講師やグループワークも組み込んだ内容となり、非常に充実した研修会となりました。今後も、多数のご参加を希望しております。

沖臨技主催の「新人研修会」につきましては、令和7年7月12日（土）に沖縄産業支援センターで開催し、45名の参加者がみられました。以前のようにペンションを貸し切った宿泊の研修体制は、現在の時代にそぐわないと感じられ、今後も宿泊なしの終日開催で進めていきたいと思っております。この事業は、宿日直に対応出来るため、学術部から各分野の基本的なレクチャーだけでなく、日臨技や沖臨技、連盟に至るまでを網羅しており、一番の目的は、受講者同士や講師・役員などと横のつながりを深めてもらうことで、是非多くの方々に参加いただきたいと望んでおります。

公益活動としては、まず、なごみ会（沖縄県医療保健介護連合）主催の「県民健康フェア」が令和7年8月17日（日）に沖縄コンベンションセンターで開催し、多数の県民の方々の参加がみられ、毎年臨床検査技師会のブースは、多数の人で賑わっております。次に、恒例の「全国“検査と健康展”in 南風原 2025」は令和7年12月14日（日）にイオン南風原店で開催いたしました。例年と比較して、集客数が少なく感じ、開催地や企画の内容も検討していかなければならないと思わ

れました。

学術活動に関しては、まず、2025年度沖縄県医学検査学会（第60回）が令和7年8月10日（日）に琉球大学文系講義棟で開催いたしました。「臨床検査×AIの推進とグローバルな臨床検査技師の融合」の学会テーマで、企画は特別講演に横地常広日臨技会長をお招きし、日臨技の方向性やこれからの臨床検査技師について講演していただきました。他に、学会長講演や学生フォーラムも開催し、部門企画は生物化学分析部門と輸血・細胞治療部門が担当しており、学会テーマに沿った素晴らしい学会となりました。

次に、日臨技助成金申請研修会についてですが、昨年度は12研修会を開催いたしました。各分野、この制度を有効活用しており、令和7年度も充実した内容が行われました。加えて、令和7年度（第41回）沖縄県医師会臨床検査精度管理調査も例年どおり9月に実施し、報告会も令和8年2月8日（日）に沖縄県医師会館で開催し、教育講演では沖縄県医師会の田名会長に「沖縄の医療課題とその対策」の内容でご講演いただきました。この教育講演は、例年専門的な内容になっておりますが、今回のようにパブリックな内容も今後必要かと思われま

す。日臨技は、昨年度47都道府県における行政との災害対策協定の締結を推進しておりますが、沖縄県も早急に行政と締結を目標にしておりましたが、達成できませんでした。この件に関しては、次年度に継続的に体制を構築していきたいと考えております。

連盟については、日本臨床検査技師連盟が毎月Webでの研修会を実施し、かなり力を入れております。地方の臨床検査技師連盟にとって大きな指標となっておりますが、当会でも会員数が伸び悩んでいる状況で、継続して増やしていかなければならない課題点となっております。

沖臨技の事業の一つに、4年前から開始した「ひまわり奨学金事業」があります。令和5年に1名、令和6年に2名、昨年度は1名の奨学生が誕生しました。現在4名の方が対象となっております。

会計報告は、一昨年度に技師会PCの総入れ替えや事務員の雇用補償などの見直しなど、大きな出費がありましたが、令和7年度は支出に関して、若干意識した取り組みを実施いたしました。この件は、中長期的に継続して考慮していきたいと思

います。以上、令和7年度の事業報告を述べてきました。次年度は、理事の交代も少なく、新体制となり2期目になり、真価が問われる年度にあたります。理事20名、監事2名、計22名で、懸命に沖縄県臨床検査技師会活動に取り組んでいく所存でございます。会員の皆さまのご理解・ご協力を心からお願い申し上げます。

一般社団法人 沖縄県臨床検査技師会
会長 山城 篤